

事業所名

あきやまケアルーム

## 支援プログラム

作成日

令和7年

1月

17日

法人（事業所）理念		「子どもの権利条約」を遵守し、病気があってもなくても、障害があってもなくても、すべてのこどもたちに発達支援をする。同様にその保護者にも就労を可能にする支援をする。								
支援方針		子どもたちが社会で安心して生活できるよう、子ども達を取り巻く環境を理解し、地域資源を生かし、より良い療育を提供していく。								
営業時間		9時	0分	から	17時	0分	まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容										
本人支援	健康・生活	起床・食事・昼寝・就寝などの生活リズムを大切に元気に登園することを基本に、お子さんの体力、免疫力に応じて、施設や周辺の感染情報を保護者と共有し、施設内を清潔に安全に保って生活できるようにする。医療的ケアの必要なお子さんには、看護師もしくは喀痰等吸引研修を受けたスタッフを配置し、医師の定期的な見守りと協力医療機関として同法人「あきやま子どもクリニック」との連携することにより安全に行う。								
	運動・感覚	作業療法士、理学療法士による定期的なりハビリテーションを行い、拘縮予防、姿勢や四肢機能の向上、ADLの向上をサポートする。またその時の情報を児童指導員や看護師などのスタッフが共有し、日常生活の中で効果的に継続できるように工夫する。隣接の保育室メニューの造形や音楽遊びに参加して、お子様の状態にあった活動を提供する。不定期ながら音楽療法士の指導も取り入れ、コミュニケーション能力獲得の助けを行う。お子さまによっては、触覚遊び（冷たいまたは温かいものを触れる、粉を触る、ゲル状のものを触る）やふれあい体操などで過敏性の改善をめざす。								
	認知・行動	毎日の活動で、朝の「お返事ハイ」の歌、ハイタッチ、昼食時にはエプロンをつけて食事の歌を歌う、お昼寝時のパジャマへの着替え、定期的なおむつや排泄チェックなど、一日の一連の行動を流れで進めていくことにより、生活の中で行動の意味を身に付けていけるよう工夫する。朝の会での絵カードで活動の予測ができるようにしていく。								
	言語 コミュニケーション	「お返事ハイ」の歌のあと、「〇〇ちゃん」「はい」と返事してハイタッチ、の流れの中で声を引き出す。気に入った遊びでもう一回やってほしい時指を一本立てることを覚えてもらうなど、少しずつ言語や言語外の意味を伝える手段を身につけていけるようサポートする。発達段階によって「これやって」「おしっこいきたい」などが表現できるように促す。お子様によっては、泣き声やしぐさを観察しスタッフ間で情報共有して、要求を察知できるように努める。								
	人間関係 社会性	ケアルーム内で、お友だちも巻き込んで遊びを行うことにより、他者の存在を認識できるようにする。いつものスタッフを覚えて安心して過ごせる。慣れてきたら、隣接の保育室へ合同保育に行き、より多くの近い年齢のお子さんの中で過ごすことに慣れる。発達段階によっては関わって遊べるように促す。さらに地域の保育園への並行保育を実施し、地域のお子さんとの交流を進めていく。								
家族支援		保護者会・パパママ講座・ペアレントトレーニング			移行支援		保育園への移行支援（合同保育・並行保育）、就学支援（就学前調査への回答や移行支援シート作成など）			
地域支援・地域連携		あきやま保育室合同保育、市立保育園への並行保育、みたか交流会「まちかど」に参加			職員の質の向上		職員研修・外部研修（研修者のケアルーム内スタッフ間の情報共有）・喀痰吸引などの資格取得			
主な行事等		保護者会・お芋ほり・縁日・展覧会・親子遠足・お泊り保育・フェスティバル（運動発表会）（あきやま保育室と合同もしくはケアルームのみの行事）								